

人形芝居燕屋十吟遊打人

花咲爺  
はなさかじいさん

枯れ木に花を咲かせましょう。

日本に古くから伝わる美しき死と再生の物語



つばめや  
人形芝居 燕屋

〒390-1243 長野県松本市神林5108-8

TEL&FAX 0263-58-1357

E-mail [katagake@yahoo.co.jp](mailto:katagake@yahoo.co.jp)

URL <http://tsubame8.com>

脚本・演出：くすのき燕 / 音楽：吟遊打人 / 美術：吉澤亜由美 / 大道具製作：笛師九兵衛（葦笛工房）

## 想像力

想像力は、人への思いやりや科学する事の元となる力です。しかし、この素晴らしい力も使わなければ伸びてはいきません。演劇や人形劇は、楽しさの中で想像力を伸ばしていきます。

## 人形の出てこない人形劇

扇と座布団だけで形作られた犬が、人形遣いの手によって生命を与えられます。

人形遣いの手がその扇から離れると、観客は犬が死んだのだと感じます。

扇は色を変え、木の葉、桜へと新たな命を宿していきます。

古（いにしえ）の死と再生の物語が、観客の想像力で現代に生き返ります。

## 一人二役の仮面劇

いい爺と悪い爺。いいだけの人や悪いだけの人現実にいるわけではありません。民話はこのような形で、人間の心の両面をイメージとして提示してくれているのです。

本作品の中では、一人の役者が面を付け替える事で、いい爺さんと欲深の爺さんを演じ分けます。

民話の持つ生きる智慧を、演劇の力で伝えます。

## 和楽器の生演奏

音楽だけでなく、効果音も含めた全ての音を和楽器が奏でます。

生だからこそ伝わる音があり、観客の感性に直接訴えかけます。